



みみの記念日 3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳の日 9月23日手話言語の国際デー

2011年（平成23年）3月11日の東北地方を大地震 M9.0 が襲った。三陸をはじめとして福島、太平洋海岸は大津波により死者 2 万人弱、行方不明者 2,500 人の大惨事となった。この時の聴覚障害者の死亡率は 2.0%、東北 3 県の全体の死亡率 1.03% の 2 倍と大きなものであった。

この「みみよりなお知らせ」では第 25 号（平成 28 年 4 月 15 日発行）で岩手・宮城・福島 3 県の聴覚障害者協会長からのヒアリングと現地を直接見て「東北大震災の教訓から学ぶ（上）」を掲載しました。

ところが、この直後 4 月 14 日と 16 日に熊本大地震が発生し、足元の被害状況とその対応策に迫られ、東北大震災は（上）で中断しました。

東北大震災の教訓は大きなものがあり、全国情報提供施設協議会の全国大会が 2018 年（平成 30 年）福島、2024 年（令和 6 年）宮城であり、また、岩手の状況も 2022 年（令和 4 年）に現地に入ることができましたので、シリーズの締めくくりとして 13 年間の変貌を掲載します。

東北大震災の教訓から学ぶ(下)

13 年目の東北大震災 復旧進む岩手、宮城、異質の「フクシマ」

復興の現在地を I. よみがえった奇跡の一本松 II. スリーマイル チェルノブイリ フクシマ として報告します。

I. よみがえった奇跡の一本松

かつて三陸沿岸は「飢饉は海より来たる」との言い伝えがあり、古くは 869 年（平安時代）に津波が陸の奥深く侵入したことが記録されている。何十年ごとに被害を受けた地域が多くあります。明治以降に 1896 年（明治 29 年）、1933 年（昭和 8 年）、そして今回 2011 年（平成 23 年）です。

このように幾度も災害・津波に襲われ続けたことから、民俗学者の赤坂憲雄元福島県博物館長は「三陸海岸に暮らす位は覚悟ができています」と表現されています。徹底して災害に対する覚悟をもち、災害防災教育を普段から行っていた。極めて大きな堤防が破壊されても、色々などろできっちり作られ、ソフトの部分でも徹底して災害防災教育をやられていたから一定程度の死者におさえられたと言われています。(ノ)



このようなことから、岩手と宮城はいち早く復興に向かっていきます。三陸海岸は各地で高さ 15m くらいの大防潮堤が築かれています。復興道路も高速・国道とも整備されています。また海岸部の津波が押し寄せる漁港や水産加工等の基地をはじめ町の中心部や商店街も、ある程度標高の高い所に全面的に移転、新しい街づくりがスピード感をもって進められていることが実感されます。

いまや復興のシンボルとされている陸前高田市（岩手県）の奇跡の一本松は海岸べりの防風林の松林の中で唯一生き残っています。この一帯には震災伝承館として整備されるとともに、周辺も巨大な防潮堤が整備され、近くの高台には新しい街づくりが進んでいます。2023 年（令和 5 年）には全国植樹祭の会場となりました。



追記：東北の中心都市仙台は大谷フィーバーで沸いている。JR 仙台駅では、大谷グッズの展示販売が多くファンを集めていた。三陸のうちの岩手・宮城の復興ぶりに重なって見えた。



II. スリーマイル チェルノブイリ フクシマ



この地名・施設名に心当たりはありませんか。いずれも 1979 年・米
国、1981 年・チェルノブイリ・ソ連ウクライナ、2011 年福島の原子力発
電所内の核燃料が溶け出し大量の放射性物質が放出されるメルトダウン
を起こした歴史上の 3 原子力発電所です。全町民避難された浪江町のケ
ース、大津波の惨状とは異質の世界がこの「フクシマ」には出現する。



浪江町は福島原子力発電所1号機との境界から5kmで原子炉から20km圏内にある。JR常磐線の浪江駅はかつて人口22,000人の浪江町の玄関口であったが、現在は「不明なことは声のみのオンラインでお答えします」と取り次ぎの用具からむなしく待合室に響いていた。

駅前には新しい街づくりの用地として80%くらいが買い上げで公用地化されているが、金融機関、不動産会社、飲食店、車両関係、ガソリンスタンドが数軒店を開いている程度で、役場は新築されたばかりで住民課等の職員数名が業務を行っている。隣の市と言っても50km離れた中通りや二本松市に未だ所在する。日中は猛暑のせいか、人はもちろん、犬、猫とも会わない。13年前、人口22,337人の浪江町は、現在の居住人は2,227人である。いまなお、全国に避難されており同じ福島県内の他市町も含めて19,144人である。佐賀県は4人。

これまでの帰還意向調査でも「戻らない」が5割、「判断がつかない」が3割となっている。現在も町内90か所で原子力放射線のモニタリング、35か所で地上1m地点の空間放射線量を測定されている。

皮肉にも宝島社の「住みたい田舎ベストランキング」東北エリア、人口1万人未満の町で若者世代・単身者部門で1位、総合部門で2位にランキングされている。新庁舎から大きな垂れ幕が下げているのを何と云ったらいいか戸惑うばかりである。

役に立つ新シリーズ【24】

第24回は60歳代男性からの相談です。

補聴器を1年前に購入し、毎日一日中着用している。一対一での会話では困らないが、職場の会議やレストランでの会食では聞きとれない。特に床も壁もツヤツヤしたレストランでは音が反響してしまい、より聞きとりづらい。

センターで、補聴援助システム『ロジャー』を試聴

補聴器は聴こえを助けてくれる道具ですが、万能ではありません。使用する環境によっては上手く聞き取れないこともあります。《補聴器だけでは聞き取りにくい環境》の時、補聴器と併せて使用する補聴援助システムのひとつにフォナックの『ロジャー』があります。『ロジャー』は、話す相手の声をワイヤレスマイクが集音し、デジタル無線で直接補聴器に届けてくれます。周囲の環境(騒がしい場所、音が反響している場所)や話し手との距離に関わらずしっかり聞き取ることが可能になります。男性には、センターにあるロジャーの試聴を案内、聞き心地を体感してもらいました。



話し手の声を

集音する送信機(ワイヤレスマイク)

首にかけてイヤホンで

聞くタイプの受信機

※送信機、受信機それぞれいくつか種類があります。

ロジャー取扱店に確認したところ、男性の所有補聴器はロジャーの受信機が内蔵されている機種であったため、送信機とペアリングするだけで使用できることが分かりました。

取扱店で送信機を借り会議や会食の場面で試聴してみたら、購入を検討することになりました。送信機1台の費用は14万~17万円程です。

III.地震と津波は予測なく いつでもやってくる。

能登半島地震から早や半年以上が過ぎたが未だ1次避難所に1,000人超が残る。全家屋倒壊約8,000軒の被害は大きく長期化している。

津波は有明海や玄海灘で地震とともにやって来る。

東北大震災・熊本地震はじめ能登半島地震を目の当たりにして、三陸のように日頃の災害防災教育がいざという時の災害に立ち向かう覚悟を育てることを改めて痛感する。

センター長 伊東康博

センター設立10周年企画 ~この時期 何があったかな?~

2017(H29)年7から8月、当センターとシステムラボトリー(株)が共同開発した「安否確認システム」の事前登録を開始しました。

災害のため備えを忘れてはいけません。

● 巡回聴こえの相談 ● (予約制・無料・10~15時)

7月23日(火) 小城市役所 2階大会議室
8月21日(水) 巖木市民センター 大会議室
9月24日(火) 脊振交流センター(脊振支所)

編集後記：先日、自宅の防災バッグの中身を点検しました。食品の賞賞期限の確認、大事ですね。(m)

佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目1-12 (佐賀商エビル4階)
TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705
メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp
ホームページアドレス: http://saga-mimisapo.jp/

<開館時間>

9:30 ~ 18:00

<閉館日>

毎週月曜日、祝日、年末年始